

大阪大学大学院薬学研究科 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開

1. 研究課題名	原発性肝癌臨床検体を用いた創薬研究
2. 研究責任者 (所属・職位・氏名)	大阪大学大学院薬学研究科・特任教授（常勤）・辻川和丈
3. 倫理審査と承認日	【承認日】2021年10月21日 【審査】大阪大学大学院薬学研究科・薬学部臨床研究倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長の承認を得て実施する。
4. 研究実施期間	2021年10月21日～2027年3月31日
5. 共同研究機関および 各施設の研究責任者 (※多機関共同研究の場合記載)	和歌山県立医科大学 第1外科 講師 速水晋也
6. 研究の目的・意義	<p>原発性肝癌は、本邦において癌死亡者比率の第5位（2017年統計）を占める難治性の癌であり、その5年相対生存率は30%程度である。現在治療薬としてはアテゾリズマブとベバシズマブ併用による化学療法やレンバチニブやラムシルマブなどの分子標的薬などが使用されているが、その効果は不十分である。原発性肝癌は、ウイルス性肝炎、アルコール性肝炎や非アルコール性脂肪性肝疾患などによる慢性的な炎症と遺伝子の突然変異が積み重なることが発生原因とされている。近年、肝炎ウイルス治療薬の進歩によりウイルス性肝炎が原因となる肝癌は減少傾向にある。しかし非ウイルス性肝癌の発生は増加傾向にある。よって非ウイルス性肝癌の治療創薬の早期創製が切望されている。そのためにも非ウイルス性肝癌の悪性化メカニズムの理解も必要となる。</p> <p>癌の創薬研究においては、これまで主に癌細胞株を用いた2次元培養により悪性化分子メカニズムの解明研究や標的分子の探索、さらに化合物の薬効評価がなされてきた。しかしながら、この方法により創出された化合物のうち臨床で薬効と安全性が確認される確率は非常に低いことから、The National Institutes of Health (NIH)は創薬研究において癌細胞株の使用から癌臨床検体を用いた研究へと舵をきっている。本研究では、非ウイルス性原発性肝癌の革新的治療創薬を展開するため、肝癌臨床検体を活用し、in vitro 3次元培養系（patient-derived cells: PDC）の構築とin vivo patient-derived xenograft (PDX)マウスの作製を行うことにより肝癌の分子生物学的解析を行うとともに、創薬研究へと応用することを目的とする。これらPDCやPDXの作製と利用により展開する本研究は、非ウイルス性原発性肝癌の悪性化における分子生物学的理解とともに予後改善を目指した革新的治療薬展開を可能とし、非ウイルス性原発性肝癌患者にとって大きな意義をもたらす研究となる。</p>
7. 対象となる試料・情報、その取得期間、利用方法	和歌山県立医科大学病院第2外科で、倫理審査承認日から2027年3月31日までに非ウイルス性原発性肝癌と診断された患者の摘出された腫瘍ならびに患者背景
8. 利用または提供する試料・情報の項目	肝癌患者の術後組織（癌部組織と周辺非癌部組織）、培養液、血液（血漿）と患者情報：年齢、性別および臨床関連情報（診断名、病期など）
9. 研究対象者またはその代理人の求めにより、研究対象者が識別される資料・情報の利用または他の研究機関への提供を停止すること及びその方法	ご自身の試料・情報を研究に利用されたくない方は、連絡先までその旨お知らせいただければ研究対象から削除する。また研究対象者は「同意撤回」により、研究協力をいつでも途中で止めることが可能。またそれによって不利益を被ることもない。
10. 研究資金・利益相反	<p>科研費</p> <p>AMED生命科学・創薬研究支援基盤事業（BINDS）</p> <p>民間企業共同研究費</p>
11. お問い合わせ先	<p>大阪大学大学院薬学研究科</p> <p>附属化合物ライブラリー・スクリーニングセンター 特任教授 辻川和丈</p> <p>e-mail：tujukawa@phs.osaka-u.ac.jp, 電話番号：06-6879-8190</p>